



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和3年
6月15日
第3号



今年は例年よりも早い梅雨入りとなりました。すっきりとしない空模様が続く日々ですが、そんなときこそ楽しいこと、うれしいことを見つけながら気分を上げていきたいものです。

主体的な学びの推進については、研究授業を中心とした校内研修が始まるなど、日々の授業改善につながる取組が進められていることと思います。

どのような授業、どのような子ども達の姿を目指すのかをしっかりと校内で共有し、「授業が変わった!」「子ども達の学びに向かう姿が変わった!」と感じられる1年にしていきたいと思います!



毎年6月は「食育月間」、毎月19日は「食育の日」です

日本の食育推進活動は、「食育基本法」やそれに基づく基本計画等を踏まえ、国民運動として全国で展開されています。「食育月間」や「食育の日」は基本計画により定められており、食育のより一層の推進を図る期間としています。

今年は「第4次食育推進基本計画」が公表され、新たに、コロナ禍での在宅時間を活用した食育の推進やデジタル化に対応した食育の推進が重点事項として掲げられています。

「食育月間」の重点事項

- (1) 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
- (2) 持続可能な食を支える食育の推進
- (3) 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

食育は、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てることです。様々な機会を捉え、学



校教育全体で食育の推進に積極的に取組みましょう。

↑食育の推進に役立つパンフレット『「食育」ってどんないいことがあるの? (農林水産省)』が、こちらからダウンロードできます。



「命の大切さについて考える日」の取組 ～いじめについて向き合い、考える～

平成25年5月8日、本市中学校女子生徒が自ら命を絶つという、非常に痛ましい出来事がありました。この出来事を決して風化させてはならないという強い決意から、平成26年度より5月8日を「命の大切さについて考える日」と設定して、各校・園で様々な取組が展開されてきました。

今年度は改めて「いじめ」を自分の事として深く考え、自らの言動を振り返り、自己と向き合うようにするなど、指導を工夫して取組の一層の充実を図るよう各学校・園にお願いしました。

各校・園の取組報告から、「いじめを許さない風土づくりを進め、みんなが安心して過ごせる学校・園にする」ことを訴える講話や詩の朗読、掲示物の展示、いじめ防止に向けた道徳の授業を行うなど、様々な取組が展開されていることがわかりました。

各学校では、これまで児童生徒のささいな変化も見逃さず対応されてきました。その結果、本市のいじめ認知件数は一時大きく増加していました。しかし、ここ数年減少傾向へと転じています。未然防止のための日々の取組として行われている「居場所づくり」「絆づくり」の成果とも考えられます。今後もつながり支援プロジェクトの日常化によりいじめの未然防止を図るとともに、多面的なアセスメント等により、小さな変化を見逃さない組織的な生徒指導を進めていきたいと思います。



児童運営委員会による
いじめ防止アピール



先生方による詩の朗読



命に関する図書コーナー

目指せ！日本一の図書室！！

皆さんの学校の図書室はどんな図書室ですか？
子どもが行きたくくなるような図書室、居心地のよい図書室…そんな図書室をつくっていくことを目的として、「目指せ！日本一の図書室！！プロジェクト」をスタートします。

今年度は、市内小中学校8校を対象として、学校図書館の環境整備及び書籍購入を行い、学校図書館の充実を図ることとしています。

6月2日（水）に対象校の担当者に集まっていたき、担当者会を行いました。

それぞれの学校でどのような図書室にしたいのか具体的なイメージをもって準備していくことを確認し、リニューアルに向けて動き始めました。

府中町立府中小学校

学校図書改善プロジェクト～「読みたい！」をふくらませる環境整備



登校したら目の前は読書スペース
カフェのような“いのちの本棚”



パソコン教室と行ったり来たり
調べ学習のための“創造の森”

【『夢あふれる学校図書館』府中町立府中小学校】

子ども達が本に興味をもつきっかけづくりができるよう、皆でいろいろなアイデアを出し合ってみましょう！

特別支援教育の視点に基づいた 学習指導と生徒指導

広島県立広島特別支援学校が発行している「地域支援室だより第2号」に掲載されていたコラムの一部を紹介します。

教室内を見回すと、状況に合わない言動から、ちょっとしたトラブルになってしまうという場面はないでしょうか。このような場面では、子供に対して「わがまま」、「自分勝手」等のイメージが先行してしまうこともあります。もしかしたら、わがままや自分勝手ではなく「他者の視点から自分や物事を捉えることが苦手」という特性がある可能性があります。この場合、想像（イメージ）することの困難さから、状況を客観的に把握したり、相手の気持ちに気付くことが苦手だったりすることが考えられます。対人関係のトラブルでは、実際に起こった事象に目が向きやすくなりますが、子供がどのように状況を把握し、気持ちを理解しているか確認することが必要です。

その子の特性を正しく理解して関わるのが大切になります。



具体的な指導支援として…
コミック会話などを用いて状況や気持ちを可視化して整理する、SST 等で適切な関わり方を教示する 等

ICT活用への道

タブレットをこうして活用しています！第1弾

本格的にタブレットの活用が始まった令和3年度、廿日市市立小・中学校でどのように活用されているか、ご紹介していきます。

6月号は「阿品台東小学校」です。先日、4年生の算数の授業を参観しました。

教材は、「一億をこえる数」です。授業の導入から、一人一人のタブレットへ課題が表示されています。先生の問いかけに対して、子どもたちはタブレットに表示された問題を読み思考していきます。授業支援クラウド「ロイロノート・スクール」を使っているため、問題を解き終わると子どもたちは、

提出箱へ課題を保存していきます。提出箱に入っている回答は一覧で確認できるので、クラスみんなの回答を共有し、学び合うことができます。45分の授業が「あっという間」です。「考える」「説明する」「考える」、子どもたちも学ぶ姿勢が止まりません。子どもたちの「主体的な姿」を生み出したのは、先生の発問とタブレットでした。

阿品台東小学校



朝のタブレットタイム



短時間でも
日々の積み重ね

↓漢字の筆順タッチ



↓キーボード
アドベンチャー



理科の授業

写真で記録！

操作に困ったら助け合う

